



自然薯栽培ホルダー



長さ 130 cm のホルダーが芋をまっすぐ育てる！

Iwatani 自然薯栽培ホルダー の特徴

(特許出願済み)(選べる2タイプ)

- ① 省スペースで立体栽培が可能
- ④ 伸長を防ぐストッパー付きタイプ

U字型のためホルダーを重ねて設置でき、収穫も簡単。

排水性の高い不織布をポケットのようにホルダー先端に設置しました。芋の生長点がそこへ入り込むと、ストッパーが芋の伸長を妨げます！

- ② 土の使用量を削減

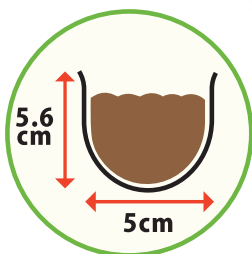
ホルダー内に入れる土の投入量を最小限に抑える形状で、作業効率とコストを改善。

- ③ 寒さに強い、軟質素材

芋を傷つけにくい、やわらかいポリエチレン製。さらに耐寒性が高く、割れにくい素材です。

規格

厚さ	長さ	幅	高さ
0.6mm	130cm	5cm	5.6cm

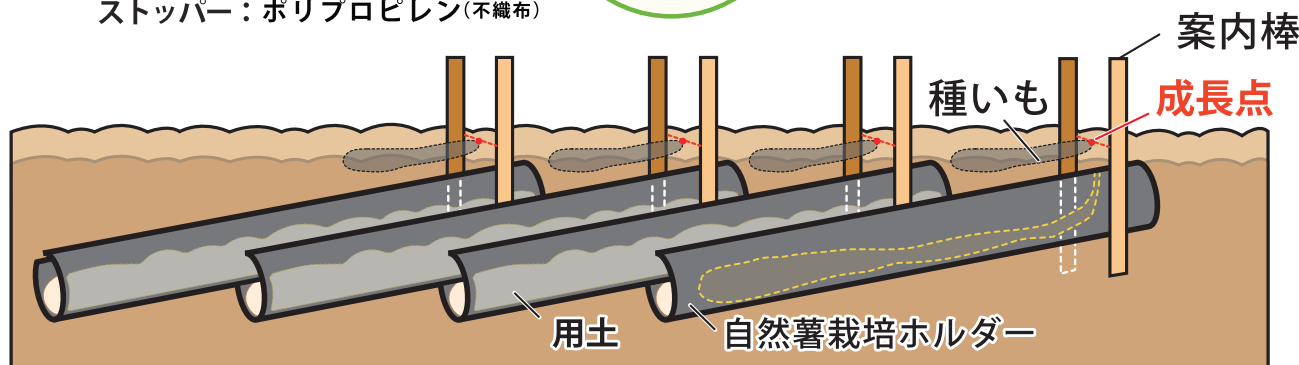


素材

ホルダー：ポリエチレン
ストッパー：ポリプロピレン(不織布)



※栽培環境によっては必ずしもストッパーまで芋が伸長するとは限りません。



自然薯栽培ホルダーを使用した栽培方法

栽培時期

作付

4月下旬から6月上旬

収穫

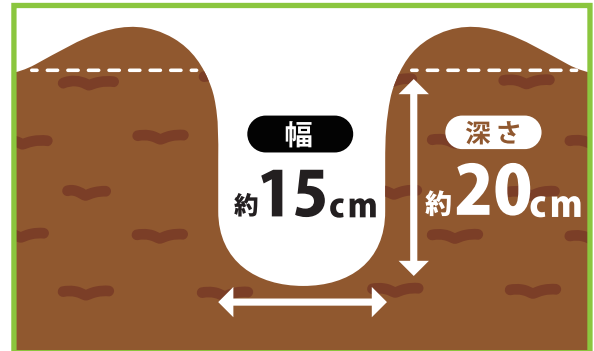
11月から3月

必要資材

- ① 自然薯ホルダー ② 種いも ③ 園芸スコップや熊手
- ④ くわ ⑤ 案内棒 ⑥ キュウリネット等のネット
- ⑦ 支柱 ⑧ 完熟堆肥等肥料 ⑨ 園芸用 U 字型ピン
- ⑩ ホルダー内に入れる、有機物の入っていない山砂など

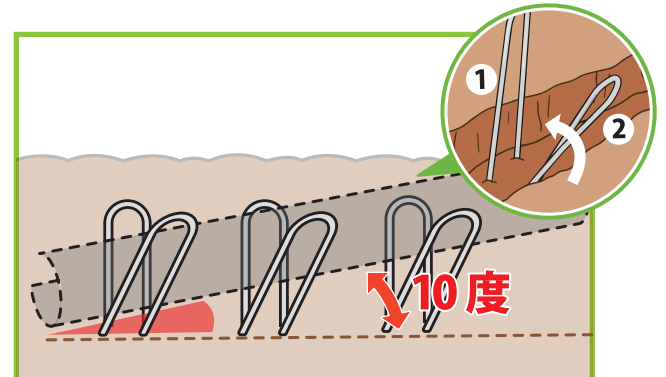
① ホルダーの埋設溝を掘る。

幅約15cm、深さ約20cmの溝をまっすぐに掘る。※畑の土にはあらかじめ肥料を入れて耕運しておく。



② 設置するホルダーの角度を決める。

ホルダーを地面から約10度の角度で仮設置し、2本の U 字型ピンで挟み込むように固定する。



③ 有機物の入っていない用土をホルダー内に入れる。

※写真は自作の木枠で1本ずつホルダーを支えています。



④ ピンの間に用土入りホルダーを設置する。

②で仮設置した角度の通り設置する。



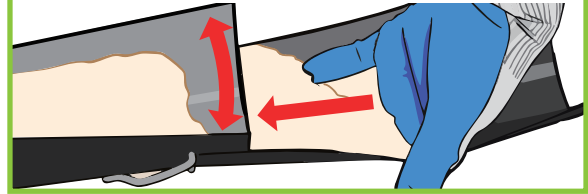
⑤ 株間 20cm でホルダーをずらしながら重ねて設置していく。

前のホルダーの中に、次のホルダーを入れ込みながら設置する。



ポイント

種いもから真下に伸びる生長点をホルダーで受け止めるために地表面に近いホルダーの端の下に指を使って枕土を入れ込み、できるだけ口を広げる。



⑥ 埋設溝を土寄せして押し固め、ホルダーを固定する。



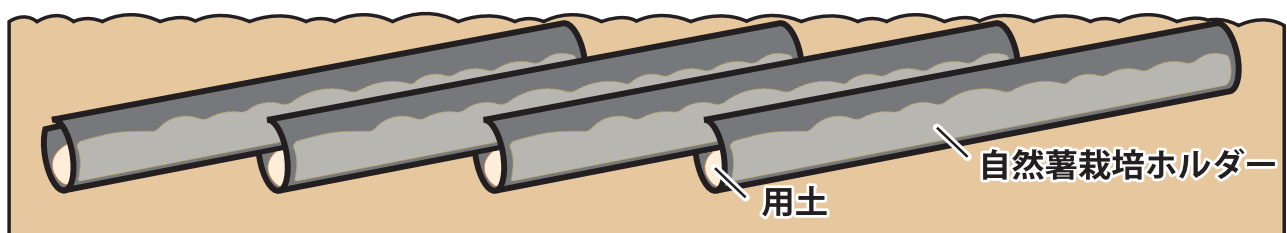
⑦ ホルダーいっぱいに入土を追加する。



⑧ 畑の土の高さをホルダーの高さに揃え、押しピンを取り除く。

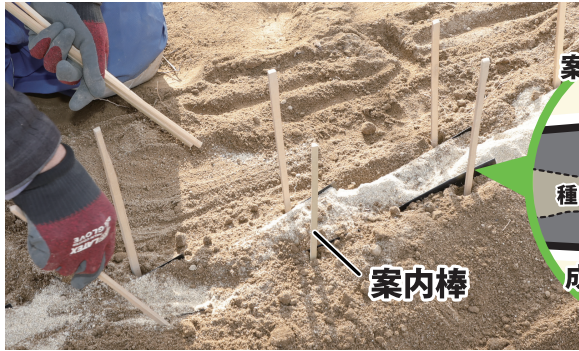


▼ ⑧完了後のホルダーの状態



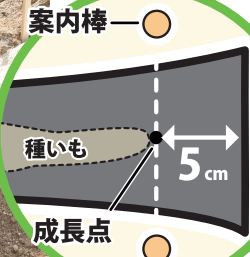
⑨ 案内棒を設置する。

地表面に近い側のホルダーの両脇に、端から5cm以上の余裕をもって案内棒を立てる。



案内棒とは

種いもの植え付け位置の目安となる棒のこと。
30cm程の割り竹や木材を用意する。

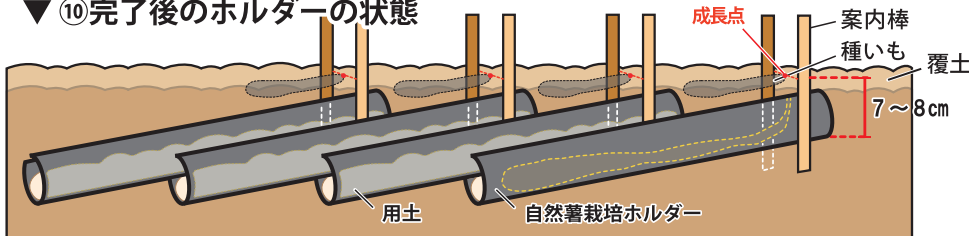


⑩ 両側からホルダー上に5cm程覆土し、種いもを設置する。

覆土後、種いもは案内棒の間に生長点を配置し、ホルダーの底面から7~8cm上側に設置する。



▼ ⑩完了後のホルダーの状態



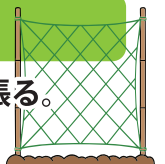
⑪ 畝立てをし、案内棒を引き抜く。

※案内棒を設置したままにすると病害の原因となるため、必ず抜き取る。



⑫ 収穫までの主な作業

- 定植後早めに支柱を立てネットを張る。
- 7~8月頃追肥を行う。



⑬ 収穫

ホルダーごと芋を土から引き抜く。
11月~3月ごろまでに行う。

